

# JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2018

46

September

## CONTENTS

- 第71回定期学術集会開催にあたって ..... 1面
- チーム医療、処遇改善、2018年度フェローシップ受賞者一覧、優秀論文受賞者一覧 ..... 2面
- 第4回理事会ニュース ..... 3面
- 2017年度フェローシップ受賞者留学体験記、ホームカミングセッション ..... 4～5面
- 総会案内、会員証と学術集会参加登録、みんなでとったぞIF、ネクタイ販売、追悼、編集後記 ..... 6面

# 第71回 The 71st Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery 日本胸部外科学会定期学術集会開催にあたって SCIENTIFIC CREATIVITY

会長：荒井 裕国 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 心臓血管外科学分野



この度、第71回日本胸部外科学会定期学術集会を開催することになりました。私ははじめ、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・心臓血管外科学分野にとりましては、大変光栄なことであり厚く御礼申し上げます。本学としては38年前（昭和55年）に故浅野献一先生のもと第33回集会在開催されて以来、関東としても9年前（平成21年）第62回の四津良平先生以来となります。会期は2018年10月3日から6日の4日間、10月3日はPGC、評議員会といたしました。会場は、グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミールとなります。今回は全てのセッションが、ひとつの大きな建物内で行われますので、会場間の移動を要しません。最寄りの品川駅は、東京の新しい玄関口として東海道新幹線の停車駅でもあり、羽田空港からのアクセスも良好です。

テーマは、「Scientific Creativity」、すなわち「科学に基づく創造性」としました。

胸部外科医は、何と言っても技量の高さが問われる職種ですから、私たちにあってある手技を習得するために練習を繰り返すことは必須であります。そして、技量の人よりも上達すれば名医と呼ばれるようになるかもしれません。しかし、それは、本当に私たちの目指すものでしょうか。技能を反復し確立された知識を習得するばかりでは、現状の問題は解決されず、いずれ限界が生じてしまいます。これを打破するのが、「科学」と「創造性」であると私は考えています。「実験を重ね、エビデンスを検証する」のが科学=Scienceであり、「考えを巡らして、常に特別な新しい何かを見つけ足していく」のが創造性=Creativityです。この、一見相反する概念である「科学」と「創造性」を行きつ戻りつしながら試行錯誤する姿勢・視点・方法論を、「科学に基づく創造性」、すなわち、「Scientific Creativity」と定義し、胸部外科学の近未来を拓く原動力と考えて、本学術集会のテーマといたしました。

今回のポスターの絵柄は、私が原図を描き、それをイラストレーターに仕上げてもらいました。心臓と肺・食道をデフォルメした怪鳥(?)のようなものが東京湾上空に浮かんでいます。私の頭の中での創造物=Creatureで、三領域の統括学会としての胸部外科学会の飛躍をイメージしました。

各領域のプログラムの充実を図るため、プログラム委員長として呼吸器外科領域を本学の久保憲一教授が、食道領域を本学の河野辰幸名誉教授が担当し、心臓血管外科領域は分野毎に、弁膜症（荒井裕国・國原孝教授：慈恵医大）・冠動脈（夜久均教授：京都府立医大）・心不全（小野稔教授：東京大学）・大血管（志水秀行教授：慶応大学）・先天性（山岸正明教授：京都府立医大）がアカデミックリーダーを担当。総

勢49名によるプログラム委員会を組織し、事務局長を本学の大井啓司講師が担当しました。各プログラム委員会には複数回に及ぶ実活発な活動をして頂き、魅力あるプログラム作りにも貢献して頂きました。

プログラムは、学会テーマのコンセプトに沿って、Creativeな企画になるよう意識いたしました。まず、新しい試みとして、Techno-AcademyとSurgical Colosseumを企画しました。Techno-Academyでは、外科理論とテクニックの実際を、海外の招待演者と国内のエキスパートが講演し、日→英、英→日の双方向性同時通訳により徹底討論してもらいます。1セッション2時間～4時間で、通常のプログラムと並行して連日メイン会場で行われます。例えば大会初日のTechno-Academy Mitralは、AATSのMitral Conclaveの主要メンバーによる4時間にわたる僧帽弁形成術のセッションで、大会2日目のTechno-Academy Aortic Valve Repairは、ドイツのShäfers先生の手術手技を軸とした大動脈弁形成術の徹底セミナーです。海外に行かずして国際学会のメインセッションを聴講できるような学術的・教育的価値の高いセッションです。

Surgical Colosseumは、治療に難渋したBailout caseやNightmare caseを症例毎にカンファレンス形式で徹底討論する企画です。演者には多面スクリーンの円形会場の中央に登壇してもらい、聴講者が四方八方から積極的に討論に加わる相互参加型のセッションです。症例毎に掘り下げた議論をして頂くために、このセッションへの入場は、情報の非公開に同意して頂いた会員と海外からの医師に限定します。

また、Gladiator Sessionと称するディベートセッション（心臓・大血管領域のみ）も企画しました。このセッションでは、On-pump CABG vs OPCAB、胸骨正中切開 vs MICSなどの主要テーマ毎に各々30分と十分な時間をかけたディベートが海外からの演者と座長を交えてColosseum会場で行われます。エキスパートによる付度のない討論を楽しみにしてください。

主要セッションでは、できる限り専門領域の時間帯が重ならないようなプログラム作りを心掛けました。討論時間は、シンポジウム・

パネルディスカッション・一般演題の各セッションの全てにおいて長めに設定しております。学会は一方通行な発表の場ではなくて討論の場ですので、活発な意見交換により発表者と参加者が一体となってよりよいセッションが作り上げられていくことを期待しております。また、今回は、全領域を通してのプレナリーセッションは行わずに、領域毎での優秀演題によるFeatured Abstract Sessionを行います。

本学術集会の公募演題では、1,297演題の応募をいただきました。厳正な査読の結果、公募全体の採択率は、約72.9%となりました。また、海外からも12カ国から45題の演題応募をいただきました。このうち、特にアジアからの上位10演題にThe 2nd JATS Asian travelling fellowshipが授与されます。

学会の国際化に向けて、同時通訳を4会場に設置いたします。海外からの参加を促すため、事前登録（Pre-registration）システムを導入しました。会員・非会員にかかわらず、事前登録と当日登録で参加費が異なりますので、ご注意ください。参加費が割安な事前登録をお勧めいたします。また、本会2日目の夕方にホームカミングセッションを企画しました。昨年度のFellowship受賞者の帰朝報告と現在海外で活躍中の若手外科医による留学体験談を語ってもらいます。海外留学を志す若手医師の方は是非ご参加ください。

心臓のプログラムは、本会3日間を通して行われますが、呼吸器のプログラムは本会初日と2日目に、食道のプログラムは本会2日目と3日目の各々2日間に集約いたしました。総会の日程も、例年とは異なり、本会2日目（10月5日）の早朝（本会開始前）となりますので、ご注意ください。

現在決定している海外招請者は、心臓領域では、David H. Adams先生（USA）、Roberto Di Bartolomeo先生（Italy）、Duke Edward Cameron先生（USA）、Anson Cheung先生

（Canada）、Taweesak Chotivatapanong先生（Thailand）、Otto Dapunt先生（Austria）、Gilles Dreyfus先生（Monaco）、Khalil Fattouch先生（Italy）、Jan F. Gummert先生（Germany）、Bob B. Kiaii先生（Canada）、Ki-Bong Kim先生（Korea）、Robert J.M. Klautz先生（Netherlands）、Rüdiger Lange先生（Germany）、Randy Martin先生（USA）、Ivan Netuka先生（Czech Republic）、Michael Reardon先生（USA）、Sacha P. Saltzberg先生（Switzerland）、Hans-Joachim Schäfers先生（Germany）、David Paul Taggart先生（UK）、Victor Tsang先生（UK）、Tristan D. Yan先生（Australia）、Song Wan先生（China）、Joseph Woo先生（USA）、呼吸器領域では、Raphael Bueno先生（USA）、Elie Fadel先生（France）、Gunda Leschber先生（Germany）、Peter Licht先生（Denmark）Alper Toker先生（Turkey）、Cameron Dorrans Wright先生（USA）、食道領域ではDae Joon Kim先生（Korea）です。

2020年の東京オリンピックに向けて新しく生まれ変わろうとしている東京の地で、胸部外科の未来を皆さまでと熱く語り合いたいと思います。

会員の皆様の多数のご参加を楽しみにしております。

荒井 裕国  
所属施設：東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 心臓血管外科学分野  
卒業大学：東京医科歯科大学医学部  
経歴：  
1982年 東京医科歯科大学医学部卒業  
1983年 東京医科歯科大学胸部外科学教室（主任教授：鈴木章夫先生）入局  
臨床研修：山梨県立中央病院麻酔科、平塚杏雲堂病院外科、佐久総合病院外科、土浦協同病院心臓血管外科  
1988年 東京医科歯科大学医学部附属病院胸部外科助手  
1989年～1991年

米国セントルイス大学外科研究員  
(D.G.Pennington 教授・H.Barner 教授に師事)  
1991年 大学帰局  
1994年～2000年  
長野県厚生連北信総合病院心臓血管外科部長  
2000年 東京医科歯科大学医学部附属病院胸部外科講師  
2007年 東京医科歯科大学大学院心肺機能外科教授  
2010年 東京医科歯科大学大学院心臓血管外科教授（講座名変更）  
趣味：スキー、音楽、ガーデニング  
好きな言葉：Creativity is intelligence having fun.  
一創造性とは遊び心を持った知性である—  
Albert Einstein



# チーム医療推進委員会セッション 『胸部外科領域のチーム医療： 地方での積極的取り組み』

## 学術集会 2日目

2018  
**10/5** (金)  
14:00~15:00

座長：坂本 喜三郎 (静岡県立こども病院 心臓血管外科)

### 『拡がりを見せる胸部外科領域の診療看護師 ＝周術期管理士』

医師の時間外労働時間にも上限を設定する働き方改革、専攻医により多い手術経験数を課し実質“定員制”とも言える新専門医制度、地域医療構想による高度急性期、急性期病床絞り込みという外的要因も加わる施設集約化の流れなど、我々外科医をとりまく環境は惑星直列と言われた平成30年度診療報酬改定と同様大きな構造改革のうねりの中にあります。この難局を打破するための最重要方策として、タスクシフティングを進め外科医がコア業務である手術やその修練に専念できるようにすることによって外科医の生産性の向上を図ることがあげられます。胸部外科学会では、10年前から米国のNP (Nurse Practitioner) やPA (Physician Assistant) のような中間職種を創設・導入するための活動、つまり大学院修士課程レベルのしっかりとした教育と修練に基づく周術期管理士の養成を先導し続けてまいりました。しかし、こうした活動が大輪の花を咲かせることはなく、平成27年10月に施行された「特定行為に係る看護師の研修制度」は、当初

我々が期待したものからは大きく後退したものとなりました。ただ、この法制化は小さいながらも大きな一歩であることは間違いなく、現在700余名の特定行為研修修了生が様々な臨床現場で活動を始めています。彼らの活動の場は、プライマリケア部門とクリティカル領域に分かれ、クリティカル部門では救急、集中治療、外科、そして外科の中では心臓血管外科や呼吸器外科、そして食道外科も含む消化器外科、つまり我々の胸部外科領域が質の高い大学院修士課程修了性(=診療看護師)の最大の活躍の場となっています。実際的な需要がある領域(クリティカル領域では胸部外科が中心)に診療看護師が活躍の場を広げつつある状況です。もちろん、未だ絶対数は少なく、制度や診療看護師のメリットや問題点が、広くかつ正しく浸透している状況とは言えません。今回の企画では、新しく診療看護師がチームに加わった“新顔”の施設、地方の施設を中心に診療看護師の生の声を含む現状をご紹介いただき、さらなる普及を目指すとともに、PAに近い新しい枠組みも模索することを目的としました。多数のご参加をお願いいたします。

グランドプリンスホテル新高輪  
国際館パミール1階 F会場 (旭光)

- 演者1 .....  
村上 友悟  
(長崎大学病院 心臓血管外科 診療看護師)
- 演者2-1 .....  
齋藤 雄平  
(松江赤十字病院 心臓血管外科 部長)
- 演者2-2 .....  
横山 淳美  
(松江赤十字病院 心臓血管外科 診療看護師)
- 演者3-1 .....  
深井 隆太  
(湘南鎌倉総合病院 呼吸器外科 部長)
- 演者3-2 .....  
戸田 泉  
(湘南鎌倉総合病院 臨床研修センター・看護部 診療看護師)
- 演者4 .....  
竹松 百合子  
(藤田保健衛生大学 総合消化器外科 診療看護師)

# 男女共同参画プログラム (処遇改善・男女共同参画委員会)

委員長：永安 武 (長崎大学大学院 腫瘍外科学 教授)

処遇改善・男女共同参画委員会では、第71回日本胸部外科学会定期学術集会(荒井裕国会長)に於いて胸部外科女性医師の会との共同開催による男女共同参画プログラムを予定しています。テーマを「男女共同参画の視点で考える胸部外科医育成」とし、今年度より胸部外科学会の処遇改善委員会において男女共同参画事業に対応していくことになったことを受けて、男

女共同参画の視点から胸部外科医が抱える様々な問題点を発表、討論していただき、本学会として今後どのような処遇改善に取り組んでいく必要があるかを洗い出し、検討する場としたいと考えています。プログラムでは胸部外科女性医師の会の代表である齋藤綾先生を含む5名の演者に発表いただきます。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

2018  
**10/5** (金)  
13:00~14:00

グランドプリンスホテル新高輪  
国際館パミール3階  
Rapid Response 会場 (北辰)

## 2018年度フェロースhip受賞者一覧 (敬称略)

日本胸部外科学会国際委員会では2018年度JATSフェロースhip、並びにJATS/AATS Foundation Fellowshipを募集し、審議選考を行いました。受賞者は次の通りとなります。(日本胸部外科学会国際委員会)

2018年度 JATSフェロースhip 心臓血管外科分野 (2名)	2018年度 JATSフェロースhip 呼吸器外科分野 (2名)	2018年度 JATSフェロースhip 食道外科分野 (1名)	2018年度 JATS/AATS Foundation Fellowship (2名)
藏澄 宏之 (山口大学大学院 器官病態外科学講座 (第一外科))	春木 朋広 (鳥取大学医学部器官制御外科学講座胸部外科学分野)	中島 雄一郎 (九州大学 医学部・大学院 消化器・総合外科)	木下 武 (滋賀医科大学医学部附属病院 外科学講座心臓血管外科)
橋本 誠 (医療法人札幌ハートセンター 札幌心臓血管クリニック 心臓血管外科)	鮫島 譲司 (神奈川県立がんセンター 呼吸器外科)		山下 慶悟 (奈良県立医科大学 胸部・心臓血管外科)

## 2018年 (2017年 Vol.65) 日本胸部外科学会優秀論文 受賞者一覧 (敬称略)

分野	氏名	所属 (当時)	Vol. No.	Title
心臓血管外科分野	鈴木 智之	東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野	Vol.65 No.2	Atrial natriuretic peptide induces peroxisome proliferator activated receptor $\gamma$ during cardiac ischemia-reperfusion in swine heart
	清家 愛幹	国立循環器病研究センター 心臓血管外科 (血管外科)	Vol.65 No.12	Clinical outcomes of aortic repair in young adult patients with ACTA2 mutations
呼吸器外科分野	永島 宗晃	群馬大学附属病院 外科診療センター 呼吸器外科	Vol.65 No.6	Analysis of variation in bronchovascular pattern of the right middle and lower lobes of the lung using three-dimensional CT angiography and bronchography
	伊藤 宏之	神奈川県立がんセンター 呼吸器外科	Vol.65 No.9	Does the histologic predominance of pathological stage IA lung adenocarcinoma influence the extent of resection?
食道外科分野	杉村 啓二郎	大阪国際がんセンター 消化器外科	Vol.65 No.8	Is 18F-FDG-PET useful for predicting R0 resection after induction therapy for initially unresectable locally advanced esophageal carcinoma?

## 1. 各種委員会報告及び協議事項

## (1) 理事会

## 審議事項

1) 「手術切開部の閉鎖創に対するNPWT(陰圧閉鎖療法)を行う新たな医療機器の申請」について

PMDAから適用指針作成のガイドライン作成参加と委員推薦依頼があり承認され、小野理事を推薦する。

2) ヒト(自己)骨格筋由来細胞シートの使用要件等の基準

要件を変更した基準案(実施施設条件でVADと連携可能な施設であること等)が提案され承認された。

3) TAVR協議会からの構成学会追加

現行の協議会4学会に経力ターテル心臓弁治療学会を追加する依頼があり承認された。

4) 肺癌登録合同委員会寄附金

会計年度(本会支出は当年度、合同委員会は前年度収入となる)が説明され承認された。なお、肺癌登録に関するGTCS誌への論文投稿が要望された。

## 報告事項

1) 日本外科学会からの死体解剖ガイドライン

改訂版が公開されたことが報告された。

2) GTCS IF獲得記念会の概要と諸費用

本日、理事会終了後、GTCS IF獲得記念会兼誌編集委員会報告会を開催する。

3) 事務所賃借契約

更新終了の要請があり、顧問弁護士から対応説明があり回答書の作成を依頼した。

## (2) 総合将来計画委員会

## 審議事項

1) 法人格の変更

行政書士から資料が提出され、本会では事業範囲の許容に関連する問題が出てきており、NPO法人を将来的に解散し一般社団法人を設立すること、その手続き及びスケジュール等が説明された。本年の評議員会及び総会にて、本会の一般社団法人化の承認をいただく。

選択は、①NPO法人の継続 ②一般社団法人設立一般社団法人の定款及び関連細則等の作成は、①社団化検討委員会を設置 ②定款及び関連細則を作成し、パブリックコメントを求める ③定款及び関連細則の承認(2019年総会・評議員会)、具体的作業を推進する。

2) 学術集会開催形態

第3回理事会にて『分野別会長制度』の導入が承認され、評議員会・総会に諮る予定であるが、本制度導入の課題として、現行制度の新制度への移行方法及び事務機能の強化がある。日程案が提案され、今後、アンケート調査を行う予定である。(対象：正会員以上)

① 2020年～2022年(現行制度下)

現行会長1名、分野会長2名(会長の指名又は理事会からの推薦、評議員会の承認)

② 2023年～2024年(移行期)

統括会長1名(分野は持ち回りで決定)、分野会長2名で3名とも立候補とし、評議員会での選挙で選出(2020年評議員会から開始)、統括会長は開催地の決定・テーマ策定・運営会社の選定を行う。

③ 2025年～(完成期)

分野会長3名(統括会長制廃止)で、3名とも立候補制で評議員会での選挙で選出、事務局及び学術集会委員会が中心となって学術集会の運営を行う。

また、分野別会長制度に伴う対応として会長、副会長は理事に含めないとし、統括会長及び分野会長経験者の、統括会長及び分野会長への再任は認められない。

なお、十分に議論を尽くすことが必要のため、臨時理事会を開始し継続審議とする。

## 報告事項

1) 地方会のあり方

会費3,000円追加で検討中、2020年施行予定で定款施行細則の変更が必要。

2) 理事、監事の定数及び任期

分野別会長制度下の理事については会長、副会長は理事に含めず、理事長・副理事長を含めて20人以下の選出理事としたい。監事は現行下で、3分野からの立候補を促す。

3) 理事長選出

来々、理事長改選時に当たり検討する。

(3) 専門医制度委員会

共通講習申請の手引きが報告された。各基本領域学会から開催を申請する場合は、各基本領域学会の専門医制度委員会、サプスベの場合は日本外科学会専門医制度委員会を通して日本専門医機構へ



申請すること、受講単位、E-learningの認定必要条件等である。

1) 心臓血管外科専門医認定機構

専門医処方を決定、新規申請におけるOff the Job Trainingの取扱い、移植ドナー摘出についてのカウントは他領域との関係もあり外科関連専門医制度委員会時に確認するなどが報告された。

2) 食道学会専門医

食道科認定医の申請に関する条件の変更が報告された。

(4) 正会員選出委員会

専門医資格取得者127名、研究者枠2名の計129名の申請があり、持ち回り委員会による審査を行い、申請者全員が正会員として選出されたことが報告され、承認された。

(5) 選挙管理委員会

評議員立候補資格に投稿履歴を加味する件は、投稿履歴ではなく、学会参加に重きを置く改訂の報告がなされ、承認された。選挙日程を現状より3ヵ月後ろ倒しにする変更案が検討中である。

(6) 会誌編集委員会

2017年投稿論文(40編)の中から、心臓2編、肺2編、食1編の優秀論文を選定したことが報告され、承認された。(P2下欄参照)

## 報告事項

1) 論文投稿・掲載状況

5月10日までに140編の投稿、Accept 55編、Accept率はOriginal Article 50%、Case Report 32.3%、Acceptまでの平均所要期間はAccept 63日、Rejectは25日、Online First掲載まではOriginal Article 8日、Case Report 13日、冊子になるまではOriginal Article 102日、Case Report 307日である。

2) GTCS Preliminary IF 2017

IFを獲得が報告され、本日、記念会兼報告会を開催予定である。現時点での仮IFは1.202でAnnual Reportが引用率が高い。

3) 出版契約の変更

Springer Nature Singapore Pte Ltd.に変更、契約書を和文から英文に変更、契約期間を1年から6年に変更することで、年間出版費用が1,950万円から1,400万円にコストダウン、年間編集事務費用・EM運営費・カラー広告費が無料、年間出版数の上限なし、ただし本会としては論文超過の著者負担金の収入はなくなるが、最終的に約700万円の経費節減となることが説明された。検討の結果、出版契約を変更することを承認した。

4) 著作権管理システムによる管理委託

引用時における新システムが説明され、導入することが報告された。

5) 70周年記念誌進捗状況

記念誌コンテンツ進捗リストが提示された。また、表紙見本が報告された。

(7) 学術委員会

1) 心臓分野

2015年の学術調査は大動脈Hemiarthにに関して、再集計結果がでたので前委員長に執筆依頼中である。2016年の学術調査は、2015年と同じコンバータを使用して、集計結果を算出する予定である。各施設から『集計→報告』という形ではなく、NCD内部で心臓手術を行ったデータをそのまま集計することとし、スピードアップをはかる。各施設での確認作業は不要となるが、施設ごとの集計は出ない。手術の階層別の施設数や、公開に関するアンケートは不可能となり、これまで回収率の記載があったが、施設・診療科数報告となる。先天性及びステントグラフトに関してマイナーチェンジがあり、9月ごろに集計結果が出る予定である。2017年学術調査はNCDデータから、学術調査に沿った形で継続できるよう『学術調査コンバータWG』を組織した。

2) 呼吸器分野

日本呼吸器外科学会と日本気管食道科学会で行う『降下性壊死性縦隔炎に関する全国調査』に協力依頼があり承認された。遠藤理事を代表委員とする。

3) 食道分野

2015年は執筆済み、2016年は調査完了集計済み、2017年は集計中である。2018年NCDデータから学術調査への検討WGを組織し、今後の学術調査

の検討を行った。現状、食道分野では食道癌登録が進み、本会学術調査の意義が少なくなっているが、胸部外科学術調査の継続性からメリットがあることを理解していただいた。食道の調査内容に関しては、NCDから出力可能なものとし、NCDデータの帰属先である日本消化器外科学会からのデータ提供は可能であり、そのコンバータ費用は本学会が負担することが承認され、WGのメンバーは学術委員会委員が担当する。

(8) 学術集会委員会

3分野会長制は、学術集会への関与が大きくなる。外国人名誉会員は基本会長が推薦するイメージで締切日を8月31日とし、締切日までに推薦があれば審議にかかる。接遇に関しては他学会にも確認し、ガイドラインを事務局主導で作成する。

第71回学術集会

- ・1,295題の演題応募があった(国内は1,249題)。
- ・トラベルグラントは26名の応募、海外招請講演演者は現時点では30名が決定。
- ・事前参加登録15,000円、当日18,000円の登録期間を7月27日より開始予定。  
(会員管理システムにアクセスするので理事会承認が必要となり、承認される)
- ・日程表で前日の評議員会16:00~18:30でその後30分間各種表彰式、1日目会長招宴、4会場同時通訳、2日目に男女参画・チーム医療・専門医、合同シンポジウム(各種委員会との合同・チーム医療を含めた胸部外科医の働き方改革の意味合い)、ホームカミングセッション(海外で研修・就職している人及び留学経験者の報告会)を予定している。
- ・学術集会収支予算書が提出された。収入は約18,900万円、支出は18,176万円で予備費は778万円を計上している。

(9) 財務委員会

学術集会情報『画像つきhtmlメール送信』の要望があり、会員管理システム会社に確認したところ、『添付ファイル付textメール送信』が提案された。しかしながら、海外の学会からはhtmlメールが利用されており、学会活動の活性化にも繋がり、広報委員会でも再検討する。

(10) 倫理・安全管理委員会

食道委員1名を推薦いただく。

(11) 診療問題委員会

インシデント報告および心臓外科におけるダビンチ支援手術のための指針が報告された。また、ロボット手術協議会委員の交替が承認され、ロボット手術レジストリーはJCVSDで術前情報も含め登録を行うことで作業が進んでおり費用の分担方法等は今後検討する。

(12) 研究・教育委員会

## 審議事項

1) 日本胸部外科学会研究助成(JATS Research Project Award)

助成金の差額50万円について、追加募集を各企業に連絡し250万円以上は達成見込みである。

・総会で選考課題の発表を行うが、研究資金のため、入金完了次第、受賞者には振り込み予定である。研究内容を添え、選考課題を理事会で再確認する。

・次年度の予定(助成体制、助成額等)を再検討する。

ホームページのバナー広告であれば支援可能な企業もあり、広報委員会に広告規定策定を申し入れ、ご快諾いただいている。また、研究テーマの決定後であれば支援可能な企業もある。

・NCDデータを用いたJATS支援課題研究の検討は他学会を参考に作成する。

## 報告事項

1) JATS academy

掲載予定のコンテンツ進捗状況として、JATS Research Project Award、研究支援関連、専門医関連、教育カレンダーとして関連学会やセミナー案内、教育コースとしてE-learningのPGCテキスト掲載、手術ビデオライブラリー、ガイドラインなどを掲載予定である。

2) サマースクール

呼吸器外科サマースクール7月7日(土)8日(日)、心臓血管外科サマースクール8月18日(土)19日(日)に開催予定である。

(13) 広報(Homepage・Internet)委員会

HPのガイドラインに心臓血管外科を掲載し、食道外科も掲載予定であること、更新されていないコンテンツは適宜、見直しを図ること等が報告された。HP・Newsletterの広告規定を策定中で次回理事会に提出する。プレスリリースはAnnual reportが完成後実施予定である。

(14) 定款改訂委員会

選挙管理委員会からの日程変更を検討する。

(15) 臓器移植委員会

移植関連学会協議会からの心臓移植・肺移植の施設認定、肺移植のレシピエント選定基準の改訂について報告された。

(16) 処遇改善委員会

アンケートを検討中、学術集会における男女共同参画プログラムは5名の指定演者(胸部外科女性医師の会から1名、女性医師2名、男性医師2名)を選定中であることが報告された。

(17) チーム医療推進委員会

学術集会2日目のチーム医療企画は『地方での積極的取り組み』をタイトルとして、4つの施設からの演者を予定している。3領域の合同シンポジウムは会長と相談中である。

(18) 国際委員会

## 審議事項

1) 2018年度フェロシップ審査結果

JATSフェロシップは5名を選出(心2名、肺2名、食1名)、JATS/AATS Foundation Fellowshipは3名を選出(心後天性2名、肺1名)したことが報告され承認された。(P2下欄参照)

## 報告事項

1) フェロシップ基金

4社から支援金をいただいております、各企業への支援依頼も引き続き行います。

2) 学術集会トラベルグラント

44演題の登録があり、内26名よりトラベルグラントの申請があり、荒井会長と協力しながら進める。

3) 2017年度フェロシップ決算及び2018年度予算

2018年にはフェロの受入先施設への謝金と送金手数料を含め予算に計上した。

4) ホームカミングセッション

第71回学術集会および国際委員会で協力して開催すること、構成は2017年度フェロおよび現在、海外で働かれている医師とし、報告と対談をしていただくこと、海外からの医師渡航費はフェロシップ基金から補助すること、また、今後、趣意書に「国際交流と本学会の国際化に資する費用」を明記することが報告された。

(19) 地方会のあり方委員会

全会費3,000円の会費値上げで2,400万円の事業費案(調整費と事務局経費を含)、スケジュール等が提出された。また、関西地方会事務局の本会事務局への移転案、地方会補助事業草案、会員管理システム改修費、関東と関西を除く各地方会の事務局と本会事務局との体制及び地方会の独自性の維持などが報告された。第5回理事会までに最終案を報告する。

(20) J-MACS委員会

個人情報保護法の改正に伴いJ-MACSレジストリーにおける個人情報の取扱いに関し、生年月日入力マニュアルを生年月日として、日にちは15日に対応することとした。J-MACS情報開示の統計解析(Statistical Report)について、現在の解析要求に応えた形とするよう担当委員がデータセンタと検討し、要重点について提示があり、統計解析計画書を作成することが決定した。

## 2. 名誉会員・特別会員推薦の件

定款施行細則に則り、候補者名簿が提出された。

## 3. 役員改選の案内

次期副会長、理事及び監事の立候補案内が提出された。各専門分野理事数は、心4名・肺3名・食1名、締切は8月6日(月)である。

## 4. その他

- (1) 評議員会資料作成に伴う日程が提出された。
- (2) VAD協議会及びインペラ部会報告  
国産補助人工心臓EVAHEART脱血管のバリエーション追加早期承認の要望書を構成団体と連名で厚生労働大臣宛に提出した。
- (3) 次世代医療機器・再生医療等製品評価指標/医療機器開発ガイドラインのアンケートへの協力依頼があり、小野理事が対応する。



# 2017年度 フェロシップ受賞者留学体験記

2017年度 JATS フェロシップ (心臓血管外科分野・呼吸器外科分野) / 2017年度 JATS/AATS Foundation Fellowship

## 2017年度 JATS フェロシップ (心臓血管外科分野)

### Deutsches Herzzentrum Munchen, Germany

白石 修一

2018年2月から2か月間JATSフェロシップ (ドイツ心臓センター：ミュンヘン) に短期留学させていただきました。



白石 修一  
所属：新潟大学医学総合病院 心臓血管外科  
卒業大学：愛媛大学  
略歴  
1998年 愛媛大学医学部附属病院第二外科  
2001年 国立循環器病センター心臓血管外科  
2004年 新潟大学医学総合病院心臓血管外科  
2006年 国立循環器病センター心臓血管外科  
2008年 新潟大学医学総合病院心臓血管外科  
2014年 福岡市立こども病院心臓血管外科  
2015年 新潟大学医学総合病院心臓血管外科  
趣味：テニス  
好きな言葉：男子は生涯一事をなせば足る

ドイツ心臓センターミュンヘンは年間約2500例の心臓手術、約500例の小児心臓手術を行うProf. Langeが率いるヨーロッパでも有数の心臓専門病院です。私は特に小児心臓外科を中心に手術・回診及びカンファレンス

等に参加させていただきました。毎日10例前後の心臓手術が行われており、小児に限らずほぼ全ての種類の心臓手術を参加・見学することが出来ました。ドイツ人らしい無駄のない合理的な手術を数多く見ることが出来、帰国後の自身の手術に非常に参考になったと感じています。周術期管理も極めて合理的であり、多職種が協力して議論を交え治療を進めるシステムは新鮮でした。回診やカンファレンスは当然ドイツ語で行われますが、スタッフは皆英語が堪能なので手術・診療について質問やディスカッションすることが出来、ドイツの教育システムについても学ぶことが出来ました。また、10年以上ドイツで活躍されている小野先生がスタッフとして居られ、留学中の公

私両面に渡り非常にお世話になり、美味しいミュンヘンビール・バイエルン料理・サッカー観戦も貴重な研修の一環として経験させていただきました。さらに小野先生とFontan術後血行動態について同院のデータベースを用いた臨床研究を行い、解析結果は今年のEACTSで採択、発表されるという非常に大きな成果が得られました。

44歳というそれほど若くない(?)タイミングでの初めての海外研修でしたが、術者としての立場から手術・診療体制について幅広く吸収することが出来、自分が予想していたより遥かに大きな収穫が得られました。不在を守ってくれたスタッフの皆様、このような機会を与えていただいた日本胸部外科学会に心よりお礼申し上げます。

### Herz- und Gefäß-Klinik Bad Neustadt, Germany

平尾 慎吾

この度は第一回JATSフェロシップに選考いただき、誠にありがとうございました。ドイツでの研修にあたり大北理事長、齋木国際委員会委員長をはじめ多くの先生方に多大なるご支援賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

私は10年間の市中病院での研修後、大学院へ進学し、国際学会で出会った研究者や術者との交流を通じて、国際的な視野の重要性を感じました。特に弁膜症での最新の手法やdevice、チーム医療、欧米での標準治療などの知見を深めたいと思い、本フェロシップに応募いたしました。

今回研修した Herz- und Gefäß-Klinik Bad Neustadtはフランクフルトから東へ

130km、ハート型の街壁がある15,000人の小さな町にあります。"Bad"は温泉街を示し、古くは温泉のある療養地でしたが、80年代に病院地区として再開されました。心臓外科病床147床、ICU36床、ヘリポートを備え、毎日10~15例、年間約3000例の開心術を行っています。プライベート病院であり、成績維持・患者集めのため、各領域で専門チームに分かれ、そのリーダーないし二番手が主に手術を行なっています。CABGは年間1000例、OPCAB率は20%程度で、主任教授Diegeler先生による緻密な吻合・グラフトデザインは印象的でした。僧帽弁手術はPerier先生を中心に年間300例以上、半数以上がMICSで行われ、小

切開によるvideo-assisted MICS MVPを通じて、僧帽弁形成の基礎から応用まで毎日2例の症例について議論できたことは、大きな財産になりました。また、Urbanski先生の手掛ける独自のバルサルバ形成や二尖弁大動脈弁に対する基部・弁形成は、非常に繊細かつ独創的な手術であり、その症例報告の執筆機会をいただけたことも貴重でした。さらには Sutureless valve や Mitral clip 等の deviceに触れられたこと、各国からの多くの見学者達との交流や気さく

な麻酔科医からのエコー講義などにより非常に充実した研修となりました。

本フェロシップを通じて、今後自身に到達すべき未来像を築く良い機会となりました。より一層精進し、本邦の心臓外科医療発展に貢献できればと存じます。

平尾 慎吾  
所属：日本赤十字社和歌山医療センター 心臓血管外科  
卒業大学：京都大学 2002年卒業  
略歴  
2002年 京都大学医学部附属病院 心臓血管外科  
2003年 近畿大学医学部奈良病院 心臓血管外科 助教  
2009年 日本赤十字社和歌山医療センター 心臓血管外科  
2014年 京都大学大学院医学研究科心臓血管外科学博士課程  
2017年 独国Herz- und Gefäß- Klinik Bad Neustadt, Clinical Fellow  
2018年 独国Hannover Medical School, Research and Clinical Fellow  
2018年 日本赤十字社和歌山医療センター 心臓血管外科 副部長  
趣味：陶芸、園芸  
好きな言葉：守破離



## 2017年度 JATS フェロシップ (呼吸器外科分野)

### St. James' Hospital, Leeds, UK

宮崎 拓郎

私も気づくと中年となり、「海外留学」という新たな環境と刺激を受けることのできる最後のチャンスではないかと考え、今回のフェロシップに応募させていただきました。



宮崎 拓郎  
所属：長崎大学大学院 腫瘍外科  
略歴  
2000年 長崎大学第一外科入局  
その後関連施設で一般外科研修  
2007年 Clinical fellow, Department of Cardiothoracic Surgery, St. Vincent's Hospital, Sydney, Australia.  
2008年 長崎大学大学院 腫瘍外科  
2011年 長崎大学大学院修了 (医学博士)  
2018年 長崎大学大学院 腫瘍外科  
趣味：旅行、博物館巡り、読書、ランニング (時々)  
好きな言葉：Chance favors the prepared mind.

た。私の研修先はDepartment of Thoracic Surgery, St. James' Hospital, Leeds, UKで、ESTSのgeneral secretaryであるAlessandro Brunelli先生、2018年ESTS会長であるKonstantinos Papagianopoulos先生を中心にお世話になりました。2018/3/20に日本を出発、6/9に帰国、最大3か月の制限のほぼ満期を過ぎました。快く送り出して貰った当科永安教授や同僚に改めて感謝した

と思います。制度上、手洗いができませんので、日々の手術・外来診療・各種カンファレンスの見学を行いました。肺癌手術の90%以上の症例が1アクセス+1 or 2portsでのVATSであり、良性腫瘍・気胸・縦隔腫瘍・膿胸等の症例では時にSingle portでも手術が行われていました。本邦の多くを占めるGGA主体の肺癌は殆どなくsolidな腫瘍が主体であること、リンパ節郭清への考え方、全摘の頻度、外科医のトレーニングシステムやワークライフバランスなど、本邦とは異なる彼らの日常臨床がよく理解できました。医療コストには何かと厳しいイギリスですがDa Vinciも行われていました。本邦が世界をリードしている区域切除への注目はこちらでも高く、良いdiscussionができた

と思います。またBrunelli先生から幾つかの臨床研究課題を頂き、今後の国際学会等で発表予定です。

今回の最も収穫は、このような世界をリードするbig surgeonsとの繋がりを築くことができたこと、もちろん英語の苦勞等ありましたが、当初の目的であった再度自身を奮い立たせるのに十分な刺激と自信を得ることができたことだと思います。

この経験を日々の診療に生かし、若手呼吸器外科医をencourageしながら、私自身も本邦の胸部外科学の発展に微力を尽くしていきたいと考えています。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を頂きました日本胸部外科学会国際委員会の先生方、スポンサー企業の方々に深謝致します。本当にありがとうございました。

## ホームカミングセッション (第71回学術集会・国際委員会)

定期学術集会としては初めての試みとしての企画です。このセッションは、3部構成で行う予定です。第1部では、昨年度から本学会が開始したfellowshipの受賞者に実体験を報告していただき、生の声でそれらを会員の皆様と共有することを図ります。第2部では、現在海外施設で研究、または、臨床修練を積んでいる留学生

を呼び寄せ、留学実現までのプロセス、留学先での苦労話や学んでいる事柄について率直に報告していただきます。そして、第3部として、登壇者間での質疑を行いながら、中堅・若手の胸部外科医の海外施設研修の意義についての話し合いを深めます。皆さん奮ってご参加ください。

2018  
**10/5** 学術集会2日目  
(金) 18:45~20:15 (予定)

グランドプリンスホテル新高輪  
国際館パミール3階  
A+B会場 (慶雲+白雲)

## University Hospital Zurich, Switzerland

古川 公之

この度は名誉あるJATSフェローシップを受賞させて頂き、身に余る光栄に存じます。

選考戴きました理事会の先生方に心より感謝申し上げます。



古川 公之  
所属：山口宇部医療センター  
卒業大学：岡山大学  
略歴  
2003年 神戸西市民病院  
2008年 香川県立中央病院  
2010年 岡山大学  
2013年 ビッツバーグ大学  
2014年 山口宇部医療センター  
趣味：Jリーグ  
好きな言葉：感謝

チューリヒ大学に2018年1月-3月の間、短期研修を行いました。Walter Weder教授の厚意により手術見学中心の研修としました。毎日手術を見学し、一日の終わりにノートにまとめるということを繰り返しました。手術の幅が広いというのが第一印象で

す。私自身は地方の一般病院に勤務しているため比較することが難しいですが、肺移植やロボット手術は大学病院ならではの感がありました。複雑症例、気管支形成や肺動脈形成を要する手術も積極的に行われており、中皮腫手術や臨床試験も見学することができました。チューリヒはドイツ語圏でありカンファレンスや回診は分からないことも多く、質問することにしていました。胸腔鏡手術は道具や手順が若干違いますが日本と同様に行われており、今後はロボット手術に移行していく可能性が高いようでした。個人的にはロボット手術を見たことがなかったため、3Dの視野で良く見える

ということが分かりました。

スイスは物価が非常に高いところが難点でした。家族で行ったため苦労した点多かったですが、子供達にとっては良い思い出になったかもしれません。冬で寒いというのは残念でしたが、暖かい季節ならもっと良いと思われそうです。

最後になりましたが人手不足の中、このような貴重な機会を許可していただいた山口宇部医療センター、岡山大学の同門の先生方に厚く感謝しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## Hôpitaux Universitaires de Strasbourg, Strasbourg, France

加藤 博久

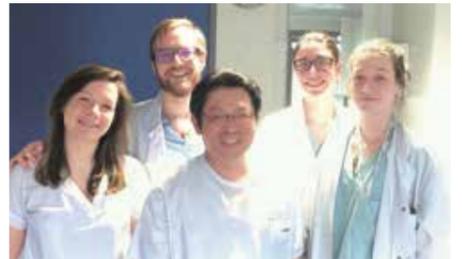
この度、フランスのストラスブール大学に2018年2月から2ヶ月間、短期留学させていただきました。私が当施設を選んだのは、「IRCAD」という内視鏡手術教育施設がストラスブール市にあったためです。しかし、IRCADは大学とは異なる管轄で実際には利用できなかったのが残念でした。一方、ストラスブール大学は欧州の胸腔鏡手術拠点施設でProf. Massard Gilbert, Prof. Pierre-Emmanuel FalcozはESTSの重鎮の先生方であり、非常に恵まれた施設で経験をさせていただいたと思っております。

研修では主に手術を学び、毎日手術があり手術総数は125件でした。特に肺移植、ロボット手術はそれぞれ4例、7例見学でき、これまで私には経験がなかった分、勉

強になりました。胸腔鏡手術は3ポートの見上げ式でスタッフとレジデントの2人で手術を行うsolo surgeryでした。リンパ節郭清の精度は日本の方が優れていると感じましたが、手術時間は胸腔鏡下肺葉切除を1時間30分以内に完遂させます。そのコツを勉強してきました。また、教授2人の他、3人のスタッフDr.がおり、それぞれの技術を見学できたことは貴重でした。フランスも皆保険制度です。ロボット手術は費用がかかるため通常の開胸手術では、ステープラーやエネルギーデバイスを用いない“low cost lobectomy”を意識されており学べき点が多々ありました。

初めの2週間は生活に慣れることで精一杯でしたが、その後は少しずつ慣れ、週末

にはパリやモンサンミッシェル、隣国ドイツへと知人との交流や観光ができ、有意義に過ごせました。短期間ではありましたが、本留学は現在の私には丁度良い時期、期間であったと思います。最後に、本学会より御支援いただきまして、会員の皆様、大北理事長、齋木教授、そして奥村明之進先生に深く感謝申し上げます。



加藤 博久  
所属：独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院  
卒業大学：山形大学医学部  
略歴  
1999年 山形大学医学部 第2外科  
2005年 山形大学医学部大学院卒業  
2005年 山形県立中央病院 呼吸器外科  
2007年 仙台厚生病院 呼吸器外科  
2009年 日本海総合病院 呼吸器外科  
2010年 山形大学医学部 第2外科  
2015年 4月 公立置賜総合病院 呼吸器外科

2015年10月 山形大学医学部第2外科  
2018年6月～ 独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院

趣味：サッカー  
好きな言葉：努力



## 2017年度 JATS/AATS Foundation Fellowship

### Emory University Midtown & St. Joseph Hospital, USA

高橋 洋介

私は2001年に大阪市立大学を卒業し現在までひたすら心臓外科に没頭し邁進してまいりました。気付けば40歳を超えており、何かチャレンジできていなかった事、悔いが残ることがあるかと思返すと“海外留学”でした。ある日、上司より日本胸部

外科学会が提供する海外でのfellowshipが始まったことを聞かされました。すぐにチャレンジしたいという強い欲求に駆られ応募しました。幸い、JATS/AATS Foundation Fellowshipに受け入れていただくこととなりました。私は、2017年にRobotic surgery

の console surgeon の資格を得、今後 robotic surgeon として頑張っていきたい矢先の非常に良い timing での fellowship があったことから Robotic surgery を勉強することを第一希望として要望を伝えました。2018年1月5日より3月30日までアトランタにある Emory University Midtown hospital および Emory St. Joseph Hospital で研修が始まりました。単身で渡米し、僕にとっては全てが初めてでありました。現地の英語は南部のアクセントが強く最後まで理解するのに苦労しました。Michael Halkos 先生および Douglas Murphy 先生が僕を指導してくださいました。彼らは非常に良い外科医であるとともに良き指導者でもありました。Halkos 先生は Robotic MIDCAB を行い、Murphy 先生は Robotic mitral valve repair をほぼ毎日行なっていました。米国は州の規則が非常に厳しく、免許をもたない私は基本的には observer としての研修でした。しかしながら、毎日繰

り返し見学することで言葉の壁を超えて自分の中に吸収されていく知識、経験を実感できました。オーストラリアからの robotic fellow と仲良くなり豚の心臓を使用して da Vinci Si を用いて手技のトレーニングを繰り返しました。さらに、研修中は上司の柴田利彦教授、および村上貴志准教授がアトランタに来てくださいました。Emory 大学と非常に良い関係が構築できたのではないかと思います。4月に日本に帰国後は、非常に良いタイミングで胸腔鏡下僧帽弁形成術が保険認可されました。大阪市大で Robotic team を立ち上げ、この6月から私が console surgeon として robotic mitral valve repair を開始しました。全てが良いタイミングで物事が進んでいきました。

最後に、このような機会を与えてくださった柴田教授、および僕の日本での仕事を cover してくれた医局員に心から感謝したいと思っております。



高橋 洋介  
所属：大阪市立大学医学部心臓血管外科  
略歴  
2001年5月1日～2003年3月31日 大阪市立大学医学部附属病院臨床研修医  
2003年4月1日～2007年3月31日 大阪市立大学循環器外科学大学院  
2007年4月1日～2011年3月31日 福井循環器病院 心臓血管外科レジデント  
2011年4月1日～2013年6月31日 大阪市立総合医療センター シニアレジデント  
2013年7月1日～2016年3月31日 大阪市立総合医療センタースタッフ 医長  
2016年4月1日～2017年3月31日 大阪市立大学医学部心臓血管外科 病院講師  
2017年4月1日～現在に至る 大阪市立大学医学部心臓血管外科 講師  
趣味：硬式テニス、ジョギング  
好きな言葉：Today is a new day

## Cleveland Clinic, USA

吉岡 一朗

今回JATS/AATS Foundation Fellowshipによりクリーブランドクリニックに留学する機会を頂きました。医師になって約20年経ち若い頃はなんとなく留学に憧れていましたが、これまで機会はなく自分では時期を逸したものと考えていました。今回の募集の話を聞きラストチャンスだと思い応募しました。留学先はAATSからクリーブランドクリニックを推薦され、担当して下さるのが Marc Gillinov 先生で、ロボット手術等で著名な先生でもあり心躍りました。今までこれといった specialty も持たずに来ましたが、僧帽弁形成術は以前から興味のある手術でしたので今

後は弁形成を志す良い機会だと考えました。

留学時期は冬を避けて3月末から5月末までとしていただきました。クリーブランドクリニックの心臓血管外科は、全米のランキングでは20年ほど連続1位という評価を受けていて質も量も他を圧倒しているようです。年間4000例超の開心術を行っており、15人ほどのスタッフ外科医が担当していました。何人かの外科医は専門分野を持っており Gillinov 先生以外にも Svensson 先生などの手術も見学することができ世界的な top surgeon の手術を短期間にたくさん見学できたことは本当にかけ

がえのない経験となりました。Gillinov 先生によるロボットの僧帽弁形成術も週2回程度は行われていて、期間中に25例ほど見学できました。周りのスタッフも皆さん慣れていてスムーズに手術は進みますが、今後日本で導入するにあたっては課題も多いのであろうと感じました。ロボット手術に限らず連日多くの僧帽弁形成術を見学でき、術前の麻酔科医による経食道エコーも秀逸で弁形成の方法も分かりやすい方法を取られていたもので、わかった気になっているだけかもしれませんが、是非自分で実践して

みたいと感じられる手術でした。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった胸部外科学会の諸先輩の方々および会員の皆様、そして JATS/AATS Foundation Fellowship をサポートしてくださいました日本メドトロニック社の関係各位に心よりお礼申し上げます。



吉岡 一朗  
所属：東北大学大学院医学系研究科心臓血管外科  
卒業大学：東北大学 1998年卒業  
略歴  
1998年 公立気仙沼総合病院 初期研修医  
2001年 仙台厚生病院心臓血管外科  
2002年 東北大学心臓血管外科入局  
趣味：料理、ロードバイク  
好きな言葉：面白きこともなき世を面白く  
住みなすものは心なりけり

会員各位

# 通常総会のご案内

通常総会を右記の通り開催いたします。ご出席の方は通常総会案内状を受けた会員に限ります(別途往復葉書で会員へ発送いたします)。

学術集会にご出席の方でも通常総会にご欠席又は出欠が未定の場合は、必ず捺印の上、委任状をお出し下さい。委任状は、議長以外の会員の方を代理人とする場合は代理人の氏名をご記入下さい。代理人氏名記入のない委任状は、議長を代理人としたものとして取り扱います。

なお、昨年の評議員会速記録及び総会速記録は、本会ホームページ(会員専用)に掲載されており、議決を伴う事業報告及び収支決算報告及び監事の選任については、評議員会及び総会において満場一致にて議決されております。

特定非営利活動法人日本胸部外科学会 理事長 大北 裕  
第71回日本胸部外科学会定期学術集会 会長 荒井 裕国

\*ご注意: 自然災害等の影響で不可避の問題が発生した場合は、開催についての対処を協議し、ホームページ等に掲載しますのでご留意ください。

日時: 2018年10月5日(金)  
7:30~8:10

会場: グランドプリンスホテル新高輪  
国際館パミール 3F  
A+B会場(慶雲・白雲)  
〒108-8612 東京都港区高輪 3-13-1  
TEL:03-3442-1111

付議事項

1. 事業報告承認の件
2. 決算報告承認の件
3. 定款・定款施行細則改訂の件
4. 役員選任の件
5. その他

## 会員情報の変更は9/25(火)までにお済ませください!



### 会員証と学術集会参加登録について

会員証を用いて本年も学術集会参加証の発行をいたします。必ず会場にお持ちください。現在お持ちでない、2017年8月1日(火)~2018年7月31日(火)の間に新入会・復会・会員証再発行申請された方には、9月上旬より順次お手元にお届けいたします。

会場の参加受付機に会員証をかざすと、氏名(漢字・ローマ字)、所属などが参加証に印字・発行されます。印字内容は9月25日(火)時点でお届けの情報に基づきます。変更は会員ページ(<https://jats.members-web.com/my/login/login.html>)よりお早めにお済ませください。なお、会員証・参加証ともに外字(PC環境で上手く表示されない文字)は置き換えて印字されます。何卒ご了承ください。会場では再発行の申請は受付いたしません。下記ご確認の上、別途申請願います。

申請内容	(1) 手続	(2) 発行
新入会 再入会	不要	
紛失 破損 汚損	再発行料¥3,000(税込)納入 口座: みずほ銀行 飯田橋支店 普通預金 2288186 名義: 特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 トクヒ ニホンキョウブゲカガクカイ ※振込人名を必ず入力	続いて ■納入を終えた旨 ■再発行の理由 記載し会員ページ専用窓口 (jats-manager@umin.net) まで申請 破損・汚損した会員証は自身で処分
改姓 改名	以下を事務局に郵送し申請 ■新旧の姓名併記した書面 ■既存の会員証	7月31日(火)までの受付分は 9月上旬順次発送  8月1日(水)以降の受付分は 2019年秋に発送
退会	HPの『退会手続』参照し申請 会員証は自身で処分	

## GTCSの取り組み

### みんなでとったぞインパクトファクター(IF)

General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) は日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会のOfficial Journal、日本心臓血管外科学会のAffiliated Journalです

日本胸部外科学会  
Webサイトに  
お勧め論文を  
掲載しています!



<http://www.jpats.org/>

## 日本胸部外科学会 オリジナルネクタイ販売

限定 300本

深みのある紺地に赤・緑・黄のストライプと心・肺・食をイメージしたロゴマークが施されたデザインとなっております。会員の皆様、学術集会参加の際などに是非お一ついかがでしょうか! お申し込みの詳細は学会Webサイトをご覧ください。



<http://www.jpats.org/>

### \*\* 追悼 \*\*

(日付は逝去日)

2017年7月26日~2018年7月25日までに届け出をいただいた逝去者一覧: 22名

原田 邦彦 2014/3/8	西村 崇 2017/5/31	芝入 正雄 2017/8/31	柴田 正樹 2018/1/28	天野 純 2018/5/16
橋本 邦久 2016/3/6	近藤 啓史 2017/6/24	田中 孝 2017/9/29	星野 俊一 2018/3/11	渡田 正二 2018/6/25
堀内 昭男 2016/6/5	尾形 利郎 2017/6/30	池下 正敏 2017/11/28	石橋 修 2018/3/26	
緒方 昭逸 2017/2/24	黒島 振重郎 2017/7/31	井上 宏司 2017/12/21	和田 達雄 2018/5/8	
津田 洋 2017/4/27	小机 敏昭 2017/8/25	田中 茂夫 2018/1/22	四方田 宗任 2018/5/15	

### 編集後記

今回のNewsletterでは、特にフェローシップの記事を多く取り上げています。この胸部外科学会の新規事業は若手中堅の胸部外科医を対象とし、彼らに世界を経験してもらい、広い見地で日本の胸部外科領域の発展に尽くしてもらおうとして企画されたものです。2017年度はJATSフェローシップ、JATS/AATS Foundation Fellowship合わせて心臓4人、呼吸器3人の合計7人の方が短期留学されました。2018年度は心臓4人、呼吸器2人、食道1人の合計7人の先生方が研修を積みに出かけることとなります。留学体験記を読むと、その意図は達成され、彼らの今後の活躍が期待されます。お金は貯めるだけでは意味がなく、有効に使ってこそ価値を發揮します。このNewsletterや学会ホームページも今後広告を増やす予定です。そ

こで得た資金で若手育成に向けた新しい事業ができるようになればと思います。

また、是非、理事会ニュースをご覧いただきたいのですが、現在、胸部外科学会の将来に関わる重要な改革が検討されています。一つはNPO法人から一般社団法人への変更、もう一つは、学術集会開催形態の変更です。後者に関しては、胸部外科学会が3領域統合学会として将来にわたって価値を維持し続けるためにはどうしても必要なものであると理事会は決断いたしました。会員、評議員の先生方にも是非、将来的な視点で深く考えていただきたい問題です。

広報委員会委員長 千田 雅之

日本胸部外科学会 NEWSLETTER

# JUST NOW JATS

No.46  
2018年9月10日発行

発行◎特定非営利活動法人 日本胸部外科学会  
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F  
TEL◎03-3812-4253 FAX◎03-3816-4560  
URL◎<http://www.jpats.org/>

編集◎日本胸部外科学会 広報委員会  
E-mail◎[jats-adm@umin.ac.jp](mailto:jats-adm@umin.ac.jp)

デザイン・制作◎株式会社 杏林舎